

美しき、ミュシャの世界へ。

琉球新報新本社ビル落成記念事業

ミュシャ展

—アール・ヌーヴォーの華—

2018

3/17 [土] ~ 5/6 [日]

浦添市美術館

開館時間：午前9時30分～午後5時（最終入館は午後4時30分）

※金曜日は午後7時まで開館（最終入館は午後6時30分）

休館日：月曜日 ※ただし4月30日（月）は開館

観覧料：一般1,200（1,000）円、高・大学生1,000（800）円、小・中学生600（400）円

※（ ）内は前売り・10名以上の団体料金

※小学生以上で障害者手帳・療育手帳をお持ちの方は無料（1人につき介添者1人までは無料）

プレイガイド：琉球新報社（天久本社・中部支社・北部支社）、ファミリーマート（イープラス）、
ローソン（Lコード 83810）、デパートリウボウ、コープあぶれ、浦添市美術館

主催：琉球新報社 共催：浦添市教育委員会

後援：チェコ共和国大使館、チェコセンター、沖縄県、浦添市、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、
ラジオ沖縄、エフエム沖縄、沖縄ケーブルネットワーク

協力：OZAWAコレクション、OGATAコレクション、琉球海運

企画協力：文化企画

琉球新報新本社ビル落成記念事業

ミュシャ展

—アール・ヌーヴォーの華—



《草草》1899年
OGATAコレクション



《羽根》1899年
OGATAコレクション

アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)は、19世紀末のヨーロッパにおいて流行した「アール・ヌーヴォー」の代表的な画家、デザイナーとして知られています。現在のチェコ共和国に生まれ、幼いころより絵を描き続け、近隣の領主エゴン伯爵にその才能を認められ、1887年、伯爵の援助を受けてパリに美術留学しました。しかし、1889年、突如、援助を打ち切られたために、挿絵などを描いて生計を立てざるを得なくなりました。

転機となったのは1894年の暮れ。大女優サラ・ベルナルが主演を務める公演《ジスモンダ》のポスターを手掛け、爆発的な人気を博し、ミュシャは無名の挿絵画家から、一気にデザイナー界のスターへと駆け上がりました。

ミュシャの描く異国情緒あふれる美しい女性像、植物をモチーフとした曲線や文様の装飾などは「ミュシャ・スタイル」と呼ばれ、アール・ヌーヴォーの代表的な作例となり、今なお多くの人を魅了し続けています。

本展では、代表作《ジスモンダ》をはじめ、ポスターや装飾パネル、本の挿絵、ポストカード、祖国チェコで手掛けた切手や紙幣など約400点を展示し、ミュシャの制作活動の全容を紹介します。



《黄道十二宮 ラ・プリュム誌のカレンダー》
1896年 OZAWAコレクション



《パリのシンボル 絵皿》
1900年
OGATAコレクション



《ランスの香水 ロド》1897年
OGATAコレクション



《ジスモンダ》1895年
OGATAコレクション

【関連イベント】

コレクター尾形寿行氏によるギャラリートーク

講師 尾形寿行(OGATAコレクション所蔵者)

日時 3月17日(土)午前11時～、午後2時～(各・約60分)

※展示会場内での開催のため、参加には観覧券が必要です。

アクセス

バス利用の場合

91番・191番(城間線)/55番(牧港線)/56番(浦添線)は①<美術館前>にて下車、徒歩5分

90番(知花線)/98番(琉大線)/112番(国体道路線)・21番(新都心具志川線)は②<大平>にて下車、徒歩5分

モノレール利用の場合 モノレール<古島駅>下車、国道330号線を北(名護方面)へバス・タクシーで4km、約10分

お車利用の場合

空港から国道330号線を北(名護方面)へ12km、約30分/沖縄自動車道 西原インターから国道330号線を南(那覇方面)へ3km、約10分

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1丁目9番2号 TEL(098)879-3219 FAX(098)878-1221



※駐車場には限りがございます。公共の交通機関をご利用下さい。